

感動一点の場

『朝里コース』
1968年 小川原 脩 画



1960年代の小川原脩は、荒々しい赤・黄・緑の色彩で、大胆にデフォルメした馬の作品を中心に手掛けましたが、全道各地の風景画を手掛けたのもまた、この年代でした。

今回の作品は、小樽・朝里川温泉にあるゴルフ場の風景です。この作品に関連して、実際にゴルフ場を訪れた際に描いたと思しきスケッチが二点あります。

一つは、グリーン上でパットするプレーヤーを他のプレーヤーやキャディー数名が見守る様子が、まるで木立の合間からのぞくように描かれています。もう一つは、コースの起伏やグリーンの位置、合間の木々、そして小高い丘にクラブハウスが立つゴルフ場の全景が描かれています。いずれも、軽妙で簡素な線ながらもプレーヤーの仕草の一つ一つが分かり、コースの起伏をおおらかに、的確に、捉えています。

二つのスケッチに描かれた内容が再構成され、遠景の山並みから起伏に富んだコースと白樺の木々に囲まれたクラブハウスの赤い屋根が印象に残ります。小さいながらも構図の生きた、広々としたゴルフ場の奥行きまでも感じる作品となっています。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

ふるさとの音楽や音

昔から祭りなど暮らしの中で聴こえ、ふるさと感じる「音楽」や「音」は、人それぞれあると思います。今回は、夏の倶知安神社例大祭で聴こえてくる「松前神楽」、「倶知安赤坂奴」、「羊蹄太鼓」を紹介します。

「松前神楽」は、採物舞、巫女舞、湯立神事、獅子舞などが太鼓、笛、鉦の演奏に乗せて演じられ、神社祭りを厳かな、思い出深いものにしてくれます。倶知安をはじめ、道南の神社で広く受け継がれている松前神楽は、平成30年には国の重要無形民俗文化財に指定されています。

「倶知安赤坂奴」は、勇壮な所作に合わせた力強いかけ声が、演じる者ばかりでなく見学者の気持ちも盛り上げてくれます。倶知安神社への奉納のため昭和8年から始まったこの奴行列は、昭和60年には倶知安町指定無形民俗文化財に指定されています。

「羊蹄太鼓」は、羊蹄山の四季や山頂を目指す人々の姿を太鼓の演奏で表現したもので、その力強い音はまさに心に響くものがあります。羊蹄太鼓は昭和38年に太鼓のロクさんこと高田緑郎さんが創作し、保存会を中心に多くの町民が心を合わせて演奏しています。平成9年には倶知安町指定無形民俗文化財に指定されています。

これらの民俗芸能は古くから伝承され披露されることで、演じる人や見る人のふるさとの「音楽」や「音」となっているのでしょう。

文：今井 真司（倶知安風土館 学芸補助員）

ふるさと探訪

476回



▲松前神楽

展覧会のお知らせ

■第1展示室

第64回「麓彩会展」

1958年、小川原脩をはじめとする8人の発起人により創設された「麓彩会」。小川原が「地方文化の苗床」として位置付けた麓彩会展は今年で64回目を迎えます。地域に根差した創作活動を展開する作家25名の作品によって、この地域の多彩な美術を紹介します。

会期：12月10日(土)～令和5年2月26日(日)

■第2展示室

没後20年 小川原脩展「小川原先生のちいさな名品展」

100号を超える大画面を公募展に次々と発表した小川原脩。その一方で、作品のアイデアや愛着のあるモチーフ、道内各地の風景など小さな作品にもその魅力が詰まっています。小振りな作品ばかりを集めた展覧会です。

会期：12月10日(土)～令和5年2月5日(日)



アート・イベントのお知らせ

■ギャラリー・トーク

麓彩会展+ちいさな名品展

12月10日から始まる二つの展覧会のみどころを、学芸員が案内します。

日時：12月10日(土)14時～14時30分 会場：展示室（無料）
お相手：沼田絵美（学芸員）

■土曜サロン

大人の手しごと (17)「クリスマスのペーパーモチーフづくり」

赤、緑、白、クリスマスカラーの画用紙のペーパーモチーフで、カードやオーナメントを作ってみませんか。

日時：12月17日(土)14時～16時 会場：ロビー（無料）
お相手：沼田絵美（学芸員）・金澤逸子（学芸スタッフ）
定員：10名※要予約、高校生以上、親子可

名曲と巡る世界の美術館 (4)「プラド美術館」

スペインのプラド美術館をクラシックの名曲とともに巡る映像を鑑賞します。

日時：12月24日(土)14時～14時45分 会場：映像ルーム（無料）
お相手：金澤逸子（学芸スタッフ）

★たくさんのご来館ありがとうございます



▲京極夏彦さんトークイベント
(11月12日)



▲ふるさとを描こう絵画コンクール
(11月3日～27日)

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一般 500円 (400円)
高校生 300円 (200円)
小中学生 100円 (50円)

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一般 200円 (100円)
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
入館は16時30分まで
※（ ）内は10名以上の団体料金
12月の休館日 毎週火曜日、31日(土)～1月5日(木) (年末年始休館)
美術館：1日(木)～9日(金) (展示替え)
展覧会初日 (10日(土)) は美術館は観覧無料

高文連後志支部写真展

夏と秋のはざま。夏休みもろくに取れず観たい美術展にも行けず、仕事ざんまいな日々・・・うーん、息抜きがしたい。そんな中、後志管内の高校生が撮った写真展が公民館で開催。

自席から徒歩12秒で現着ですもの、そりゃ観ます。観たいです。

ということで、早速鑑賞へ。

報道によると管内6校、77人が応募して334点の作品を展示。最優秀賞の「深深と降り積もる夜の中」と題した作品は、本来なら街灯の色からオレンジか白になりそうなところを深い青一色で全体を写し出し、郷愁と美しさが共存。ほかに、和傘のアンブレラスカイの下、浴衣で歩く女性の後ろ姿を収めた美しい作品や、キリンの横顔のどアップに「決心」と題した作品などなど、高校生らしい若い感性の作品が並び、とても和やかな気持ちにさせてもらいました。

よーし、もうひと頑張り。

館長 福原 秀和